

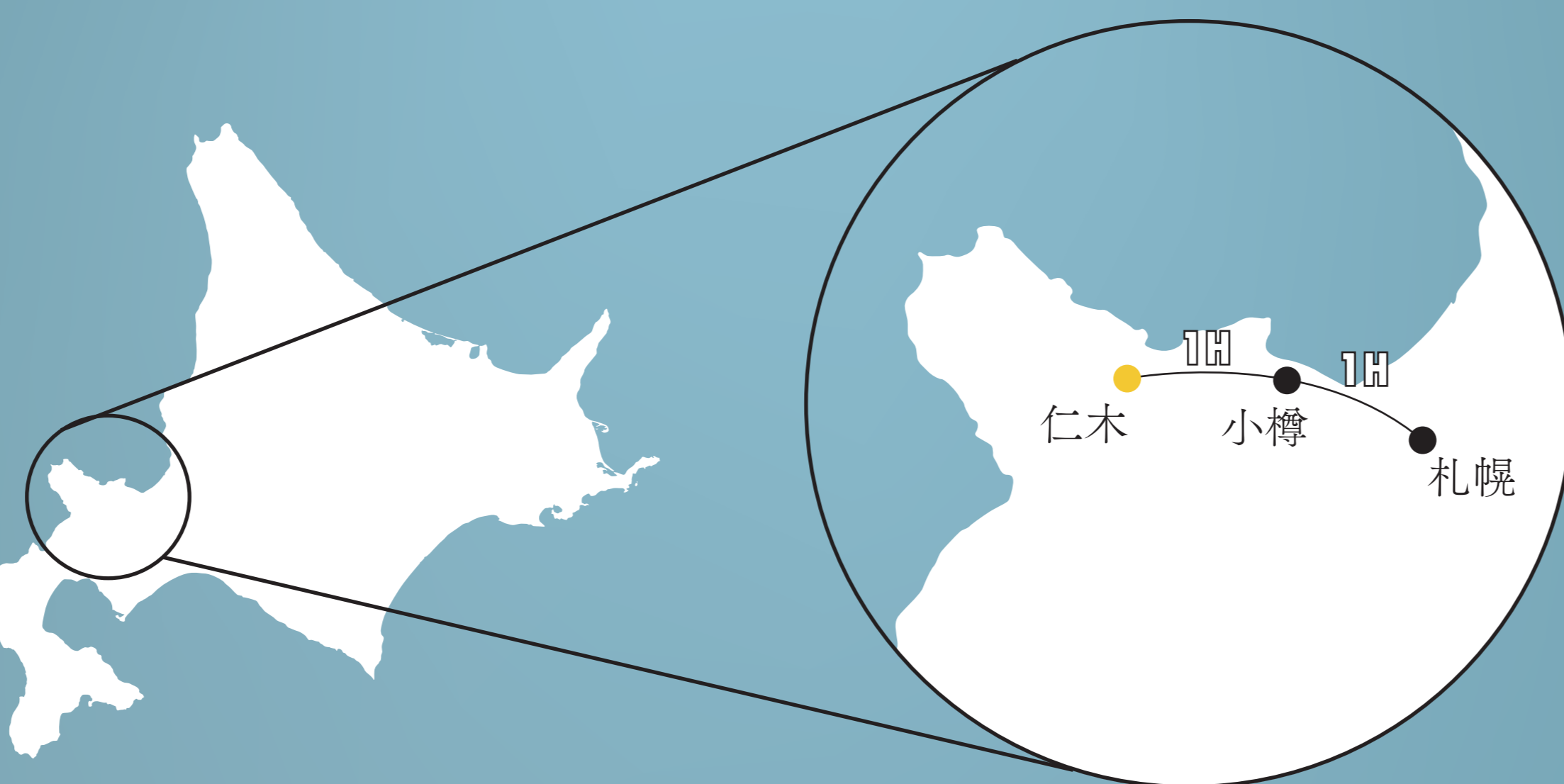
北 背景

- back ground -

人付き合いの地域性に悩んだ過去

私の地元

仁木町

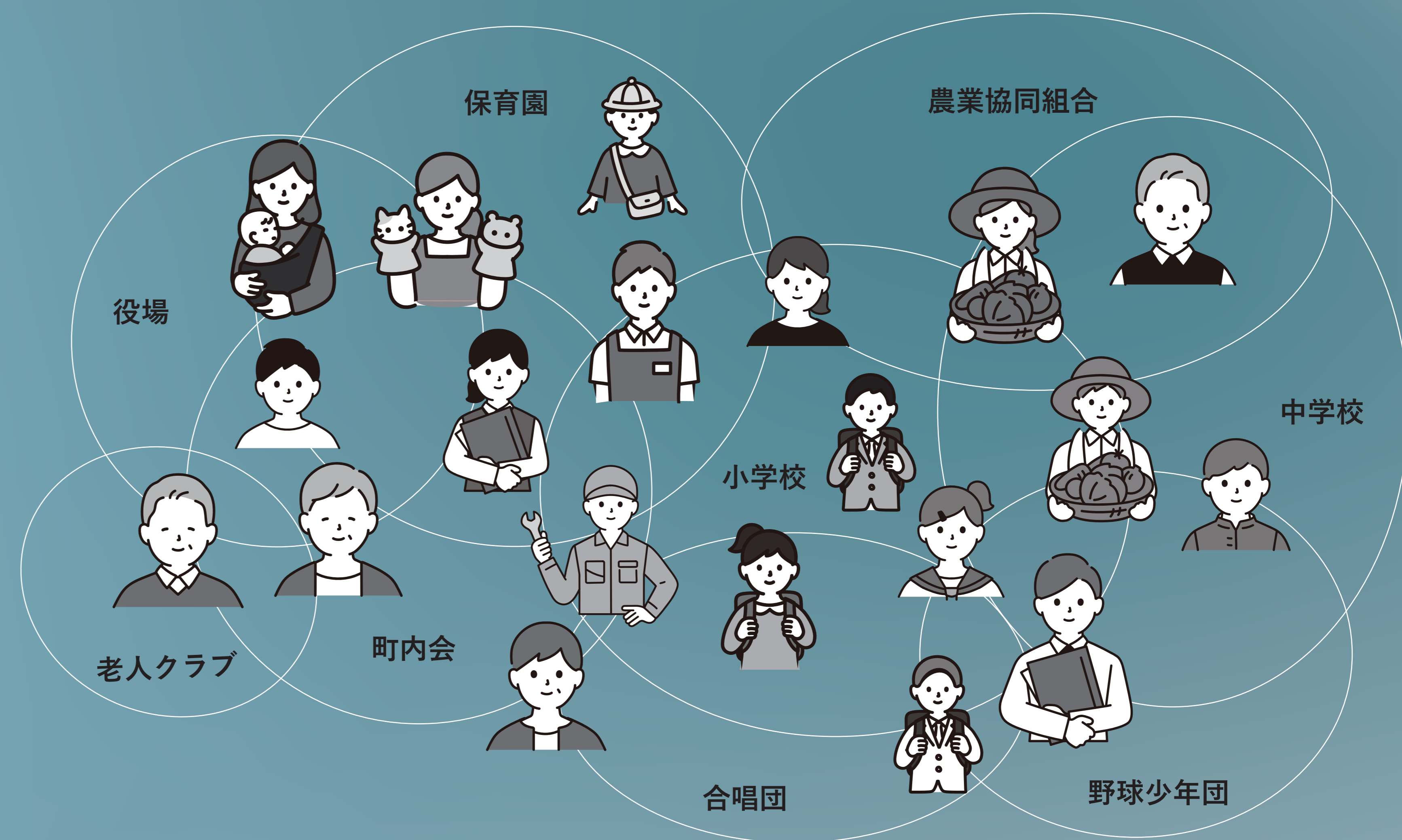


仁木町の基本情報 -

人口 **3030** 人 主要産業：果樹・トマト・ワイン

みんなナニカでつながっている。

町民たちが限られた数のコミュニティに複数所属することで、共通の知人となる人物が増える。



みんなのことを、みんなが知っている。

仁木町は多様なプライベートな情報を共有し合うことで互いに助け合い、依存関係にある。同じコミュニティに属する人に関する心配事やお祝い事は話題として上がりやすい。

小樽の高校では普通じゃない？

みんながみんな、みんなのことを深く知っているわけではないし、知られたいもない。

様々な地域から生徒が集まる小樽市の高校に入学した時、私的にはほとんどの人との付き合い方が、広く浅く感じるものだった。

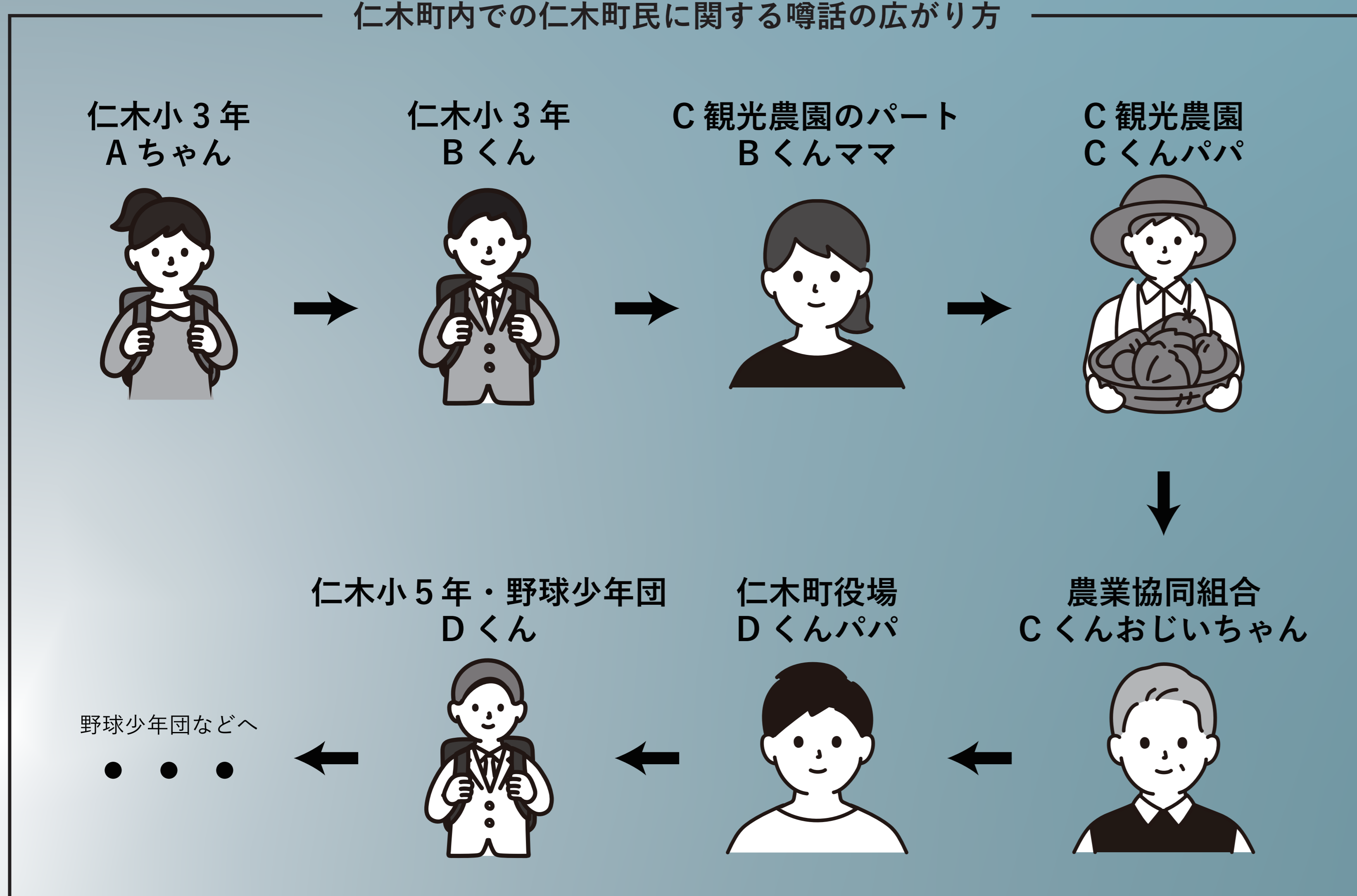
仁木町と小樽市の学校規模の比較

	N 中学校 (仁木)	C 高校 (小樽)
1 学年の学級数	1 クラス	6 クラス
1 学級の人数	16 名	40 名
全校生徒数	約 50 名	約 720 名

仁木での「誰とでもすぐ仲良くなれる自分」が誰とも仲良くなれないのはどうしてだろう？

新しい環境で、親しくなる方法って？

仁木町内での仁木町民に関する噂話の広がり方



狙い

- vision -

＼私が今まで頑張ってきた分野／

映像表現

×

人付き合い&人間関係の

モヤモヤ

都市と仁木町のコミュニケーションの「特有性」を映像で表現する。

1 仁木町と都市それぞれの人付き合いの方法や価値観について見つめ直す

18歳まで仁木町で生活し、仁木町の小中学校・小樽市の高校・札幌市の大学での学校生活を経験してきた。映画の制作を通して、これまでの人生で自分が行ってきた人付き合いの方法、自身の考え方や自分が置かれていた環境について顧みる。また、仁木町と都市部に住む人々それぞれに、制作した映画の上映会と座談会に参加していただいて、人付き合いに関する体験や価値観について客観的理解を深める。

3 映画の視聴者にも視聴者自身の人付き合いに対する考えを巡らせてもらう

映画の視聴体験を、視聴者の経験や価値観と重ねてもらうことで、各々の人付き合いの方法や価値観・考えに向き合える機会を作る。

2 今後、新たなコミュニティに属した際に円滑なコミュニケーションを図るためのヒントを得る

映画の制作を通して、高校時代、なぜ人間関係が上手くいかなかったのかを考える。それぞれ違った背景や立場を持った人が集まる、新たなコミュニティに属した際に、高校時代のような自分にとって居心地の悪い関係性に陥らないためには、どのようなコミュニケーションを図る必要があるのかを模索する。

準備

- preparation -

作品制作に向けた着想を得る

01 仁木町民へのインタビュー取材から客観的に仁木町を見直す



目的 自身以外の仁木町民の視点を知り、作品の着想を得ること。

町内の人たちには
強い繋がりや情報網があり、
誰もがそれとなくお互いを
知り合っている状況を
「当たり前」に感じている

仁木町の地域の特性を描いた作品を作ることを漠然と思い描き、
地方の特性を描いた作品を類似作品とし、参考にする

02 小説「島はぼくらと」を通して、地方暮らしについて考える



「島はぼくらと」 辻村深月著／講談社出版／2013年

概要

瀬戸内海の小さな島、苅島が舞台。島の子どもたちはいつか本土に渡る。フェリーで本土の学校に通う4人の高校生たちのヒューマンストーリー。

小説の噂話と悪口が紙一重の島で生活する感覚、
個人情報の筒抜け感と、
中学・高校時代の自分の置かれていた状況を
重ね合わせて読むことができた。

03 映画「DOG VILLE」から、町の結束感と透明性の表現を検討する



映画「DOG VILLE」2003年／lars von trier 監督・脚本

大恐慌時代のロッキー山脈の廃れた鉱山町ドッグヴィルが舞台。

映像

全編、1つのスタジオの床に白いペンキの枠線と何の建物かの説明の文字のみを描いて、建物の一部をセットに配しただけの舞台で撮影されている。町の情報伝達における透明性などが視覚的に表現されていると考える。

内容

町民たちの複雑な人間関係、エゴや欲が絡み合い、「噂の独り歩き」が描かれ、町の中の歪んだ結束感も垣間見えるものとなっている。

卒業制作においても「噂の独り歩き」の描写を扱うことを考え、情報の伝達を視覚化する手法として参考にしていきたいと考えた。

仁木町で生活していた当時の自分をモデルに、「噂」がテーマの作品を制作していく。

過去の自分自身と向き合う

手法

実際に仁木町内での「噂」の意味を模索するために、生活の全てが仁木町内で完結していた小中学生時代や小樽市に通っていた高校時代の状況や自身の気持ちを整理することを考え、以下の手法を用いた。



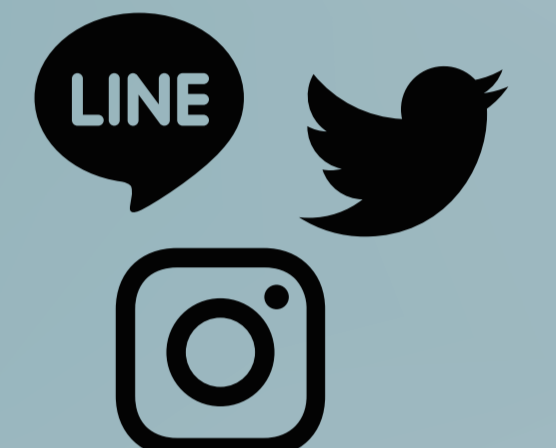
中学時代の文集を読む



小・中学時代の友人から当時の話を聞く



高校時代の友人と高校のあった小樽市を巡る



SNSを遡り高校時代の投稿を閲覧する

噂に関する疑問？

会話の場において、その場にはいない共通の知人について話すことは田舎、都会問わずよくあることではないか？

考察

田舎と都会では噂の広がり方が違う？

- 都会では噂話が学校内で収まるものの、田舎では学校を超えたより広い範囲にまで広まる
- 田舎では噂が広まっても、一つの噂が個人に強く影響を与えることは珍しい。町の人々は、噂によって得られる情報を噂された人の新たな一面として受け入れ、得た情報をもとに、その人とうまく付き合っていくことを重要視する。

考察

違いが生まれる原因として考えたこと

田舎では職業の選択の幅が狭まる。また、小・中学校の規模が小さく、ほぼ全ての児童や生徒、その保護者が互いに互いを認識している。その他にも限られたコミュニティが複数あり、それぞれのコミュニティの構成員が複雑に重なり合っているため、噂が広まりやすく、それ自体に町民が慣れている。

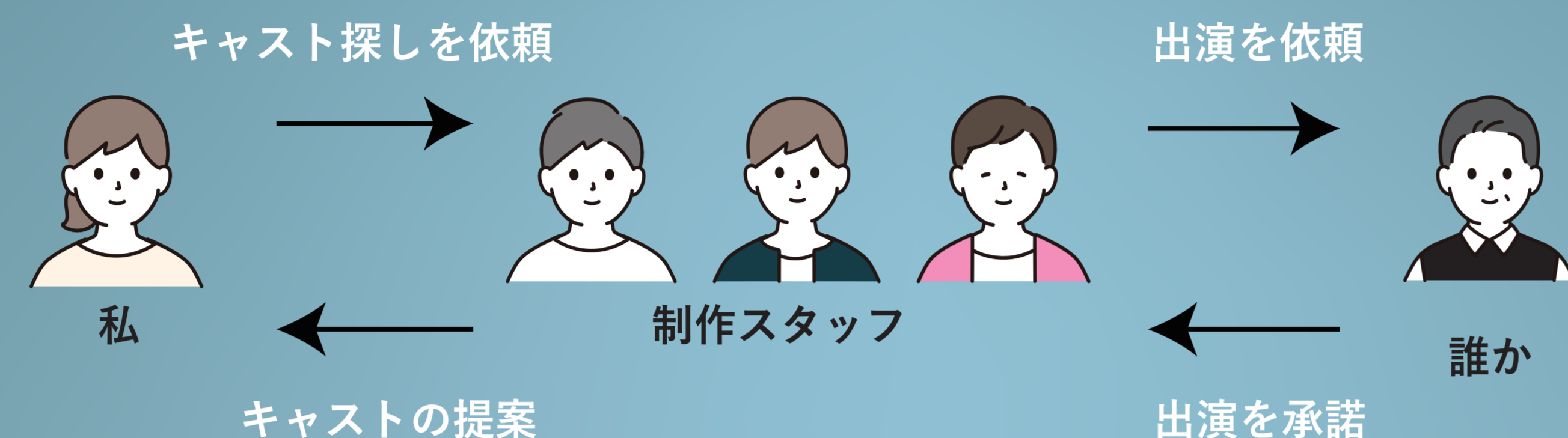
撮影

- shooting -

キャストとのコミュニケーション

役者はみんな制作陣の知り合い。

本作品のキャストは全16名である。
自分自身でのキャスト探しの他に、制作スタッフにキャストの提案・紹介をお願いした。



作品について積極的に他者に話す・噂を回してもらうという私自身の行動と、私の周りの人々の温かい支援があって得られた御縁だと感じた。



撮影場所の選定

つばめとかおるの住む朝日家



アカゲラ町にある朝日家は、つばめの母・かおるの実家でもある。そのため、少し古風な内装をイメージしていた。

知人の紹介で雑誌などにも掲載されているお宅を無償でお貸しいただくことができた。

朝日家のシーンはつばめとかおるのあたたかい空気感が印象的な場面が多い。

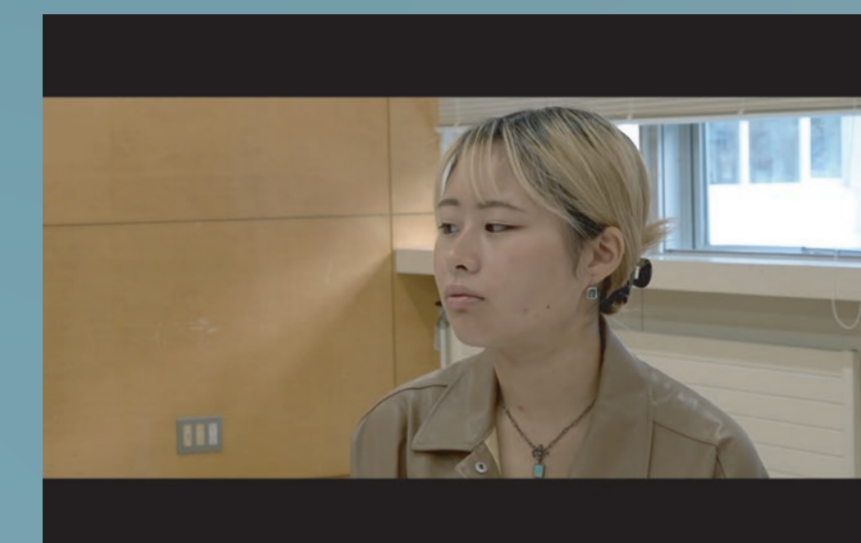
基本的には札幌市立大学のキャンパスを使って撮影を行った。病院の駐車場のシーンは本学の看護学部の桑園キャンパスが市立札幌病院に隣接していることを利用し、本学のキャンパスと病棟を合わせて撮影し、架空の総合病院を演出した。

市立ハヤブサ病院の外観



役者本人の普段の喋り口調に近い

あんず「そもそも、憶測で広められたことに怒ってたくせに自分も憶測でつばめのあることないこと悪いように言って、周りも周りでそれ信じてつばめのこと避けてるのがキモかった。」



脚本を一言一句、正しく読むことはあまり重視しない。話す内容は変えずに、役者本人の普段の喋り口調に近くなるように、現場で相談しながら台詞を柔軟に変えた。役者により自然に演じてもらう工夫。

あんず「いやあ、でもそもそも、憶測で言われたことに怒ってたくせにき、自分もつばめのことあることないこと悪いように言って、周りも周りでそれ信じてたっつのがキモくなかった？あれ」

噂話をしているシーンの撮影時は、噂話をする人物の雰囲気や表情を演出するために、噂の前後に役者同士で雑談をしてもらい、雑談の段階からカメラを回す。役者自身がタイミングを見て、噂を話し始める。そうすることで噂が日常に溶け込んでいる様子を表現した。

つばめの高校時代の回想シーンの撮影中



アカゲラ町の町並み

映画に登場するアカゲラ町の町並みは仁木町内で撮影した。アカゲラ町も仁木町と同じく、農業が主要産業という設定であるため、仁木町内の自然豊かな風景を感じてもらえる映像を挟んだ。

アカゲラ町のどかな雰囲気を演出した。

アカゲラ町のゆったりとした時間の流れを感じられる風景の映像。



脚本

- script -

ストーリー構成を練る

「都市部の一つのコミュニティ内で広まる噂・一つの学校や職場を超えた仁木町内全体で広まる噂」の違い、
「噂が日常化している仁木町」を描いたストーリー案の検討

脚本は上記を表現するストーリー構成を主軸に考えた。

- 出身はど田舎で、大人になり都市部で生活していた人が、タイムスリップして過去を追体験する話
- 地方に引っ越してきた子のストーリー
- 地方で育った人が、成長するに従って都会で暮らしていたが、数十年ぶりに実家に戻ってきたストーリー
- 都会育ちの人が面白おかしく田舎を感じるストーリー
- ずっと先の未来を描き、おばあちゃんが過去の田舎を振り返るストーリー
- 昔、田舎で暮らしていたけれど、現在、都会に住んでいる大学生が記憶喪失して田舎に戻ってくる話

比較検討したストーリー案

映画に登場する主人公が自分を省みるストーリー

主人公に視聴者自身の経験や想いを重ねることで、視聴者自身も自分自身の人付き合いについて顧みることができる

昔、田舎で暮らしていたけれど、
現在、都会に住んでいる大学生が
記憶喪失して田舎に戻ってくる話

主人公が記憶喪失期間に起こした出来事

当初

- 高校時代：クラスメイトの同性愛について噂を学校内に広めてしまう
- 中学時代：親友の『親友の親が実親ではない』という秘密を町内に広めてしまう

再度検討！

広めた噂の話題があまりにも重過ぎて、「噂の広まり」よりも「噂の内容の重さ」が際立ち過ぎてしまう

ストーリー展開【完成版】

【設定】主人公・朝日つばめ（21）は両親の離婚が原因で中学から高校までを母の地元・アカゲラ町で過ごす。中学はアカゲラ町にある中学校、高校は大都市・ハヤブサ市の高校に通っていた。大学生になったつばめはハヤブサ市で一人暮らしをしていた。

① ある日、つばめが交通事故に遭い、中学から事故までの記憶を失う。

② 記憶を取り戻すためにアカゲラ中学校時代のクラス会に参加する。

③ 高校時代につばめが起こしたトラブルを知る。

（高校のクラスメイトの恋愛に関する話題を憶測で友人に話してしまったことが高校内で噂となり、1組のカップルを破局させてしまう。）

④ 中学時代の過去も明らかになる。

（親友が高校浪人するという秘密を、母親に話してしまったことがきっかけで町中に広めてしまう。）

⑤ つばめは自分の過去とアカゲラ町の人付き合いに衝撃を受ける。

⑥ つばめの母・かおるの同僚が、つばめの記憶を取り戻すために協力してくれる。

⑦ アカゲラ郵便局の人（つばめとは初対面）がつばめの良い噂を教えてくれる。

⑧ つばめは少しずつ町と過去の自分を受け入れていく。

都市部と仁木町の比較

噂の日常化

ちなみに…

アカゲラ町 → 仁木町

ハヤブサ市 → 札幌市 小樽市

がモデル

脚本もぜひお手元でご覧ください

壁のない町 町内ひかる	壁のない町 町内ひかる	壁のない町 町内ひかる
1	6	7

編集集

- editing -

幼なじみの善意を悪意として表現する手法の工夫 - 対位法 -

反対の印象を持つ映像と音楽を組み合わせる狂氣的に。

対位法とは

「音」と「映像」というものを、二つの全く異なる単位として考え、それらを同時進行させるのである。そこに、音だけの時の、あるいは映像だけの時の効果とはちがった、音と映像が掛け合わされた全く新しい効果が生まれるという考えなのである。

(引用：西村雄一郎「黒澤明 音と映像」p63)

音楽と映像の印象を対立させることで、感情や状況の対比、物語の複雑さや多面性を表現する効果があり、シーンの印象がより強まると言われている。

アカゲラ中学のクラス会シーンに用いた対位法

映像	音楽	つばめの心情	幼馴染たちの心情
つばめを待つ幼馴染たち 教室内を何うつばめ	爽やか	緊張・不安 ちょっと楽しみ	つばめとの再会を 楽しみにしている
教室に入ったつばめを心配 しつつ励ます幼馴染たち	ポップ	焦り・恐怖 なぜみんな自分をそんな にも知っているのか	つばめを心配している 早く記憶を取り戻して 町を思い出してほしい

再会を表す穏やかな音楽でも、つばめの感情を表す悲観的な音楽でもなく、ポップで明るい音楽をつけることで、状況の不気味さ、誰もがつばめに詳しすぎることへの違和感を表現した。



つばめの心情変化をつばめの表情で表現する

映画では主人公・朝日つばめの心情変化を細かく描写するために、つばめの表情カットが多く使われている。

市立ハヤブサ病院を退院する



母・かおるとの会話



幼馴染から質問責めに合う



幼馴染のことを知る



自分の過去を知る



母の同僚・坂井のおせっかい



中村から自分の良い噂を聞く



自宅に向かう



自分への失望、町への不信感が大きかったつばめの心情が、様々な場面での自分に対する町の人々の対応から、少し変化している様子を表現した。

過去のつばめ自身への失望感が少し拭われ、町の噂が自分を救ってくれていたことも知り、町のことも前向きに感じられるようになる。

誰かもわからない坂井という男にも自分について知られていることに気まづさを感ずるつつ、つばめのためにかかしてあげたいという坂井のおせっかいにあなたも感ずる。

つばめの高校時代・中学時代のトラブルの話題では、目を泳がせるつばめの表情が特徴的である。困惑、絶望、つばめ自身や周りへの不信感を感じている。

幼馴染たちのあたたかい話題では再会したばかりのシーンよりも緊張が溶け、周りの友人たちの話をにこやかに聞くつばめの表情が特徴的である。

幼馴染たちが、つばめの知らないつばめの過去を容赦なく突きつけてくる。つばめはその言動に対して戸惑いの表情を浮かべる。

つばめにとってかおるは、唯一、記憶のある12歳の自分も知っている存在であり、心を許して話すことができる人である。

自分の知らない過去や変わってしまった現在、戻るかどうかもわからない記憶、全てに不安を抱えたつばめは、ぼーっと何かを考えてしまう。

反響音

feedback -

上映会と座談会

映画の完成後に二箇所で開催を行った。

上映後は両日程、全員に同じアンケートにご回答頂いた後、事前にご連絡いただいていた方限定で座談会を行った。

2023.11.02 札幌市立大学（札幌市）**上映会 34名 座談会 5名**

2023.11.05 仁木町民センター（仁木町）**上映会 36名 座談会 7名**

アンケートで得たこと

上映会後には来場者全員に下記のアンケートにご回答頂いた。

映画「僕の心」アンケート

1. 映画を観たことある方お答えください。それぞれの感想や印象を簡単に記入ください。

2. 映画の感想にふりかへてほしい。年齢は？

3. 映画の感想を簡単に記入ください。

4. 映画を観たことある方お答えください。感想や印象を簡単に記入ください。

5. 映画を観たことある方お答えください。感想や印象を簡単に記入ください。

6. 映画を観たことある方お答えください。感想や印象を簡単に記入ください。

7. 映画を観たことある方お答えください。感想や印象を簡単に記入ください。

8. 映画を観たことある方お答えください。感想や印象を簡単に記入ください。

9. 映画を観たことある方お答えください。感想や印象を簡単に記入ください。

10. 映画を観たことある方お答えください。感想や印象を簡単に記入ください。

映画から「自分」を顧みる

IIIの映画の感想を答える記述式の回答に関して、「自分」という言葉が頻出していた。アンケートの各回答を見ると、「自分」という言葉が4つの異なる意味で使用されていることがわかった。

- ① 劇中の主人公・朝日つばめを指す場合。
 - ② 回答者自身を指す場合。
 - ③ つばめと回答者自身の両方を指す場合。
 - ④ 一般論として自分自身を指す場合。
- ※使用頻度順

映像を通して、視聴者に自分自身の人付き合いに対する考えを巡らせてもらった。

座談会について

話はみんなで盛り上げる仁木
人の話をよく聞く札幌

座談会の中で話す話題は、アンケート項目と同じ内容である。座談会ではそれらの項目を更に深掘りしていく形式をとった。

得た気づき①

個人へのステレオタイプの変化
これまで仁木町内では個人についてのイメージは、仁木町を離れても、時が経っても変わらなかった。近年、SNSの普及により、離れていても個人の活動を把握できるようになり、イメージが更新されていくようになったが、SNSで知り得た情報から新たに作るイメージは憶測であり、実際に会ったら更に変わることもある。

得た気づき②

その噂は誰にとって良い話題なのか
個人の話題について、話題の軽さの尺度には注意が必要。「当たり前障りのない話」「みんなが気になる話」「悪い話だと思っていないこと」。噂をする本人は悪い話だと思っていなくても、される側はどう思っているかわからない。一般論的に判断して、喋ってしまわないように気をつけて、配慮していかなければならない部分かもしれない。

心配しているようで記憶喪失ということに興味があるだけのような関係性

中にいると、慣れるのかもしれないが、自分はこの町では生きていけない

職場で見せる顔って、一定程度、抑えが利いてると思うので、ちょっとこじれ出すとやっぱり学校ばくなっちゃう時ってやっぱ大人の世界でもあります。

周りの大人たちは子供たちをみんなで見守っているようで、自分もどちらかといえばそうありたいと思いますが、一方で今いる環境では難しいし、自分が子供だったらそれは嫌かも、と思ったりもしました。

噂が広まるのがわかるから、夫も役場の話とか、何か大事なことももちろんしないし、私の学校の個人的な話は…。広まってもいい話は気軽にするけども、本当に（教えている）子供の何があったのかっていうのとか、これ広まったらまずいなって話は本当に気をつけるようにしてるし。仕事柄じゃなくても時代もそうだし、どこでどう広まるかわかんないし。

悪口とかじゃなくって、そういう暮らしの中で、できた人間関係の延長上にあるそういうね、なんか心配してあげたりとか、何もならないんだけど

映画を見てる間、ずっと「そうそう、わかるわ～」と何度も思っちゃいました。

コミュニティのあり方を観た人に聞いかけようとしている作品だったと思います。聞いけてくれてありがとうございます。

特殊だけど、身内にはやさしい町

噂話が悪意があるかどうかを、自分は割り切っている

そういう人たちと仲良くやるその付き合い方っていうのも一つこれから学ばなきゃな

みんないい人たちけどちょっと息苦しいかな…？

噂話になると“誰がどんな表情で話しているのか”ということ はあまり重要な情報ではないと感じ、少し恐怖を感じました。

なんか話し方を覚えるみたい。なんか、いろんな人が話す内容とかはLINEでもその人の話し方に合わせた言葉だけになっちゃうんですよ。

この町に住む人たちは人のことにとっても関心があるんだなあ

町の人が自分が関わっていないところ、人の人間関係まで細かく把握しているのが少し怖いなど感じた

社会人になってからだと、ある程度薄っぺらい情報は確かに皆さん当然あのことと、そんな細かい個人情報なことまでは伝わらないので、まあ、わかっててもあえて言わなかったりすることはあるのかなとは思っていますね。

割と何か多重人格じゃないですけど、家での顔、学校での顔があって。誰か1人に対してみたら、全然自分のことは100のうち10くらい。

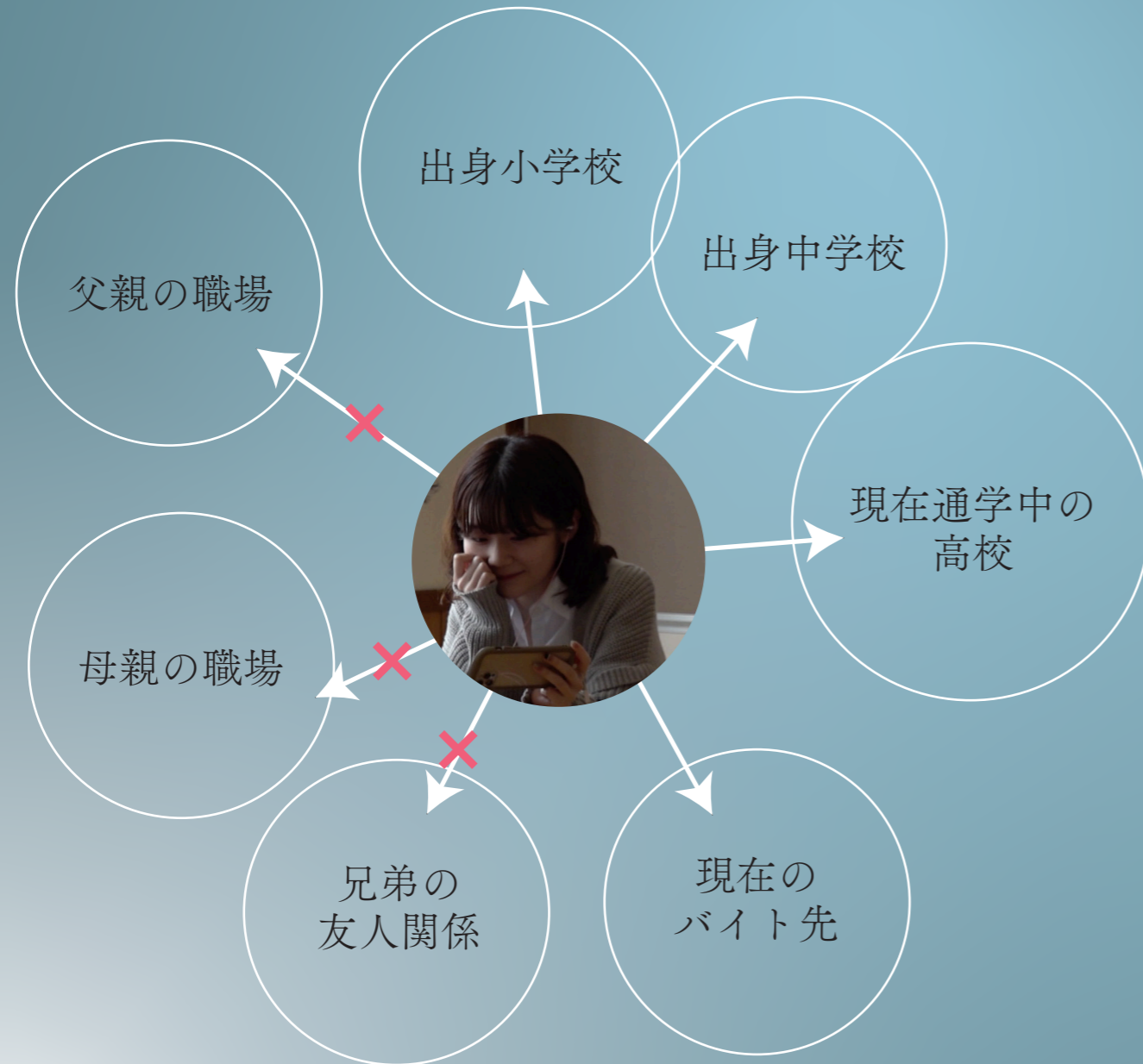
まちの「みんな」はどのくらいみんなだったのかなって思ったんだけど…
私は本当に幅広いです。私の親の仕事が介護とかが多いから、その分ちっちゃい子から高齢の方まで知られてるんじゃないかなって思います。
仁木町の町内会って、町内会でもほとんど知らない人もいるときもあるよね。新しく入りたがらない人も最近はいますよね、現実的にね。
小さい町ならではの、良い面あまり知られたくない面など情報の伝わり方、共有の仕方、色々なことに流されない気持ちが大事だと思った。

町内では、本人がどんなに変わりたい、変わったと思っけていても、既にその人に対するステレオタイプがある。離れていた期間の背景は関係なしに町内には中学当時の人間関係・力関係が残っている。

都市と田舎での噂の広がり方の違い

＼都市／

ハヤブサ市で育った愛衣のコミュニティ
(知り合いの範囲)

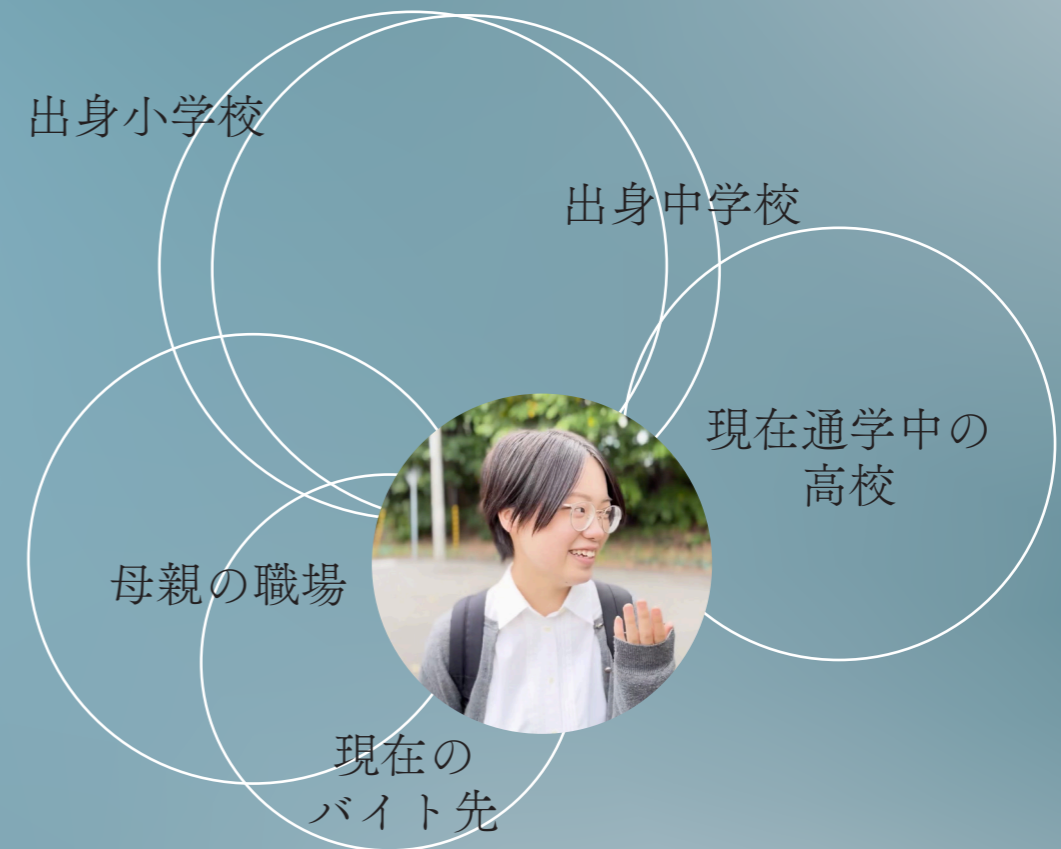


家族の属する
コミュニティの人間関係とは
あまり関わりがない

一つ一つのコミュニティに共通の知人が少なく、
それぞれのコミュニティ内の関係が独立している。

＼田舎／

アカゲラ町で育ったつばめのコミュニティ
(知り合いの範囲)



共通の知人がいる場合が多いため
家族が属するコミュニティの
人間関係とも関わりがある

一つ一つのコミュニティに
共通の知人が多く、
それぞれのコミュニティ内の関係が
重なり合っている。

そもそも自分自身が属する
コミュニティを選ぶ際に選択肢が少ない。
(学校やバイト先・サークルなど)



都市

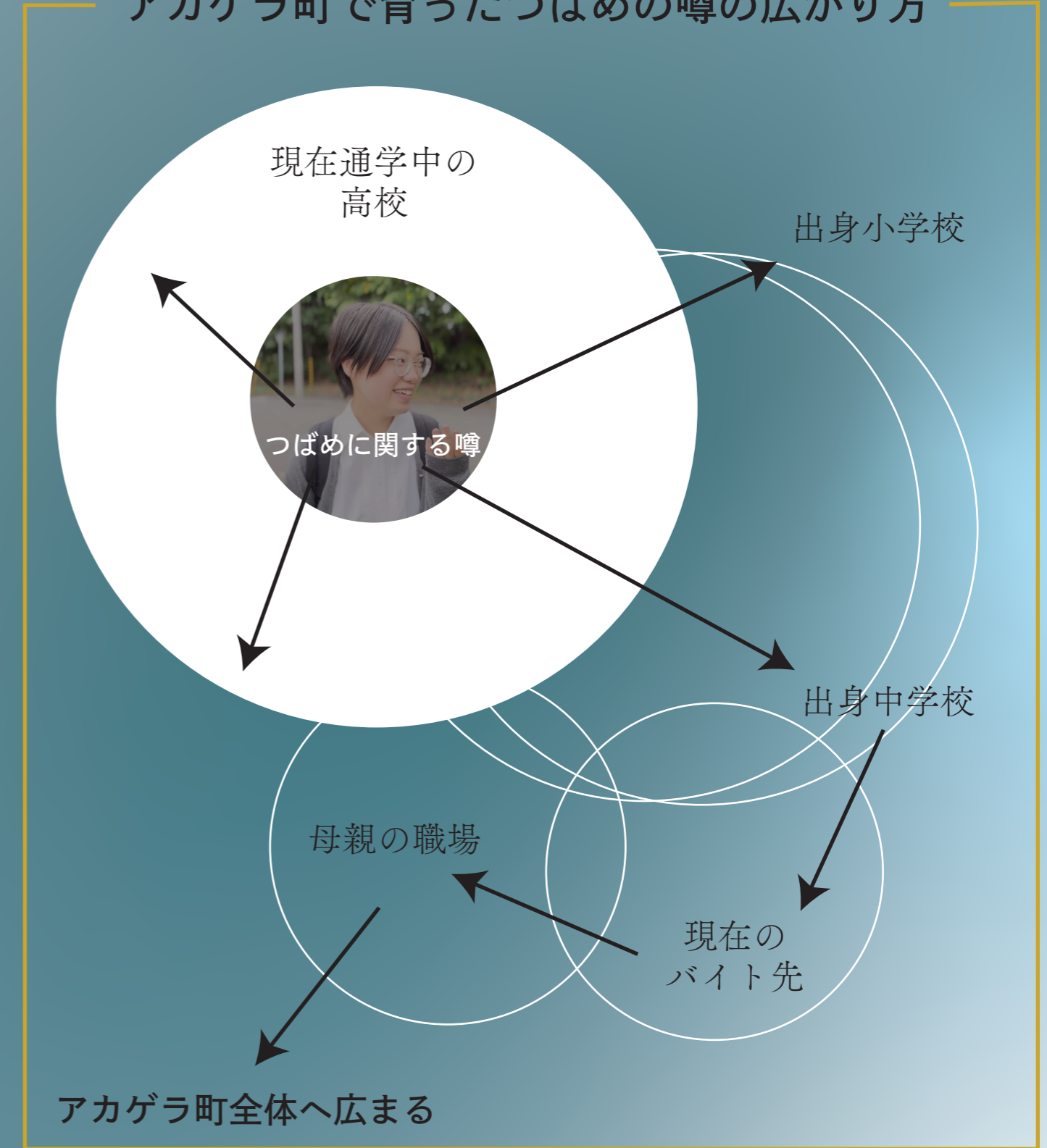
ハヤブサ市で育った愛衣の噂の広がり方



一つのコミュニティで深刻化する。

田舎

アカゲラ町で育ったつばめの噂の広がり方



情報共有でしかない。

噂する内容はそれぞれに基準があり、一応選んでいる。